

(論 説) ○鹿兒島縣に産する蝦類及其分布に就て (瓜田)

二〇

々に特別に剛毛を生じて居らず、外生殖板は線形でどんなに僻目に見ても楕圓形とは思得ぬし、内生殖板は二枚あつて始と中央に各一個の性吸盤を具へて居るのであるから明かに伊太利の種から區別されるべきものであります。併し、此内生殖板及其の性吸盤の存在するの點は共通故之れを取つて残りの同屬の種から區別して獨立の群(亞屬又は別の屬)とする事は甚だ望ましい事でありませんが今は唯之だけを豫示するに止めて置きます。

附言一、*Hydryphantus feuosus* (KOENIKE, 1885) *H. octopus* KOENIKE (1896) *H. skorikovi* (PIERSIG, 1900) *H. thoni* (PIERSIG, 1900) は獨逸から露西亞に亘つて産するもので、前記の外生殖板の後部性吸盤の性質論から

見て全く一種と見られるべきものであります。
 附言二、*H. bylesei* と *H. ucladae* を取つて作る別群の名に *Hydrydruma* C. L. KOCH (1837) を用ひてはなりません、之を *Diplodontus* A. DUGÈS (1834) の別名と爲すべきものです。
 圖解 ウチダマミヅダニの雌(一—五)
 一、體の下面。二、體の上面。三、性域、前方に在るのは第三第四基節。大きな外生殖板上の小坎は省略してあります。外生殖板の内側に披針形に描き添へてあるのが内生殖板です。四、右の觸鬚の第三、第四、第五節を示す。五、右の上顎を下面から見ると。

●鹿兒島縣に産する蝦類及其分布に就て

茲に記載する蝦類は鹿兒島灣に産する同類の全部にあらざるも普通なる種類と云ふことを得。余の此處に蝦類と稱するは一八八一年 Boas の *Natantia* に屬する種類にして同氏の分類に據る *Replanthia* に屬する「イセエビ」「セシエビ」は同灣に産するも本文に省略せり。
 (*印を附したるは産地比較的多きものなり)

Suborder NATANTIA

Tribe Penaeides

瓜 田 友 衛

Family Penaeidae

(Genus *Penaeus* FABRICIUS.

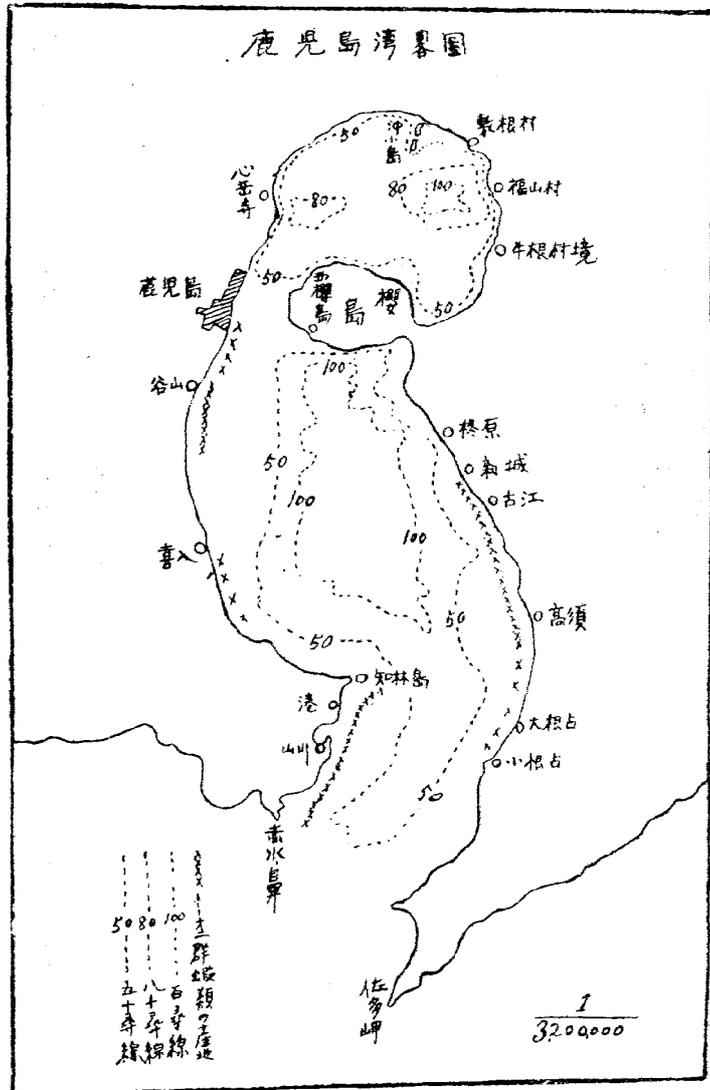
*1 *Penaeus Japonicus* OLIVER. クルマエビ

*2 *Penaeus latusulcatus* KISHINONYE. フトミヅエビ
 方言 クルマエビ

(Genus *Metapenaeus* WOOD-MASON.

(= *Penaeopsis* A. MILNE EDWARDS).

3 *Metapenaeus monoceros* (FABRICIUS). ヒメエビ



- *4 *Metapeneus affinis* (MILNE EDWARDS).
 - *5 *Metapeneus mogiensis* (RATHBUN). 方言モロモロ
方言マカエビ、ロガネエビ、シガタエビ
 - *6 *Metapeneus dalei* (RATHBUN). 假稱キシエビ
 - *7 *Metapeneus acclivis* (RATHBUN). 方言トヤ
 - *8 *Metapeneus alcyon* RATHBUN. 方言カエビ
 - *9 *Metapeneus lamellatus* (DE HAAN). 假稱オキノアカエビ
 - *10 *Metapeneus* sp. 假稱オキノアカエビ
- Genus *Trachypeneus* ALOOCK.

- *11 *Trachypeneus curvirostris* (STIMPSON). 方言ルシダカ
 - Genus *Haliporus* SP. BATE.
 - *12 *Haliporus sibogae* DE MAN. 假稱ヒゲナガモドキ
 - Genus *Solenocera* LUCAS.
 - *13 *Solenocera distincta* (DE HAAN). 方言シヨウジヨウエビ
 - Genus *Sicyonia* H. MILNE EDWARDS.
 - *14 *Sicyonia lanceifer* (OLIVER). 假稱シヤシエビ
- Tribe Carides.
Family Processidae.
- Genus *Nika* Risso = *Processa* LEACH.
- *15 *Nika edulis* Risso ? 方言シシタエビ

Family Pandalidae.
Genus *Plesionika* SPENCE BATE.
- *16 *Plesionika martha* (A. MILNE EDWARDS).

(論 説) ○鹿兒島縣に産する蝦類及其分布に就て (瓜田)

(論 説) ○鹿兒島縣に産する蝦類及其分布に就て (風田)

*17 *Plesionika bimaculus* (SP. BAILEY). 假稱ロシアカエビ
方言グンエビ

Genus *Parapanalax* BORRADALE.

*18 *Parapanalax spinipes* var. *grandis* (DOFFIN).

假稱オキスヂエビ
方言ヌヂエビ

Family Crangonidae = Alpheidae.

Genus *Crangon* WESM. = *Alpheus* FABRICIUS.

19 *Crangon malabarica* (FABRICIUS). ハシキエビ

20 *Crangon lobidens* (DE HAAN).

Family Hippolytidae.

Genus *Saron* THEALWITZ.

21 *Saron marmorata* (OLIVER).

(Genus *Latrentes* STIMPSON.

22 *Latrentes planirostris* (DE HAAN).

Family Palaeonidae.

Genus *Leander* DESMAREST.

23 *Leander japonicus* ORTMANN.

24 *Leander paucidens* (DE HAAN). スヂエビ

25 *Leander macrodactylus* (RAUHBUN).

Genus *Palaeon* FABRICIUS.

26 *Palaeon longipes* DE HAAN. テナガエビ

以上あげたるは少くも數個の標本を獲たるもの獲得すべしものみにて最も普通に見らるる種類なり、以上の

外余の觀たるもの及諸學者により鹿兒島灣産としてあげられたるは少數にあらず、今左に之等をあげ尙本灣附近の淡水産にて余の觀たるものをも併記して參考に供せんとす。

Tribe Penaeides.

Family Penaeidae.

1 *Sicyonia parvula* DE HAAN. Author name, (BALSS).

Tribe Carides.

Family Pasiphaeidae.

2 *Leptocheila gracilis* STIMPSON. (BALSS).

3 *Pasiphaea sirado* (Risso). (T. U.).

Family Atyidae.

4 *Caridina typus* MILNE EDWARDS.

(from fresh water) (T. U.)

5 *Caridina leucosticta* STIMPSON.

() (T. U.)

6 *Atya gustiva* ORTMANN. () (T. U.)

Family Pandalidae.

7 *Plesionika Ortmanni* BALSS. (BALSS.)

Family Crangonidae.

8 *Crangon Haanii* ORTMANN. (ORTMANN.) (BALSS.)

9 *Crangon obeso-manus* var. *japonica* ORTMANN.

(BALSS.)

10 *Crangon parvi-rostris* DANA. (ORTMANN.) (BALSS.)

- 11 *Crangon bis incisus* DE HAAN. (BALSS.)
 12 *Crangon cinctus* DANA. (BALSS.)
 13 *Crangon collumianus* STIMPSON. (OFTMANN.) (BALSS.)
 14 *Crangon prolificus* BATE. (OFTMANN.)
 15 *Crangon laevis* RANDAL. (OFTMANN.)
 16 *Crangon pachycheirus* STIMPSON. (OFTMANN.)
 Family Hippolytidae.
 17 *Latreutes dorsalis* STIMPSON. (T. U.)
 18 *Sperontocaris rectirostris* (STIMPSON). (T. U.)
 19 *Sperontocaris neglectus* DE MAN. (BALSS.)
 Family Rhynchocymetidae.
 20 *Rhynchocinetes* sp. (T. U.)
 Family Pontonidae.
 21 *Coralliocaris superta* (DANA). (OFTMANN.) (BALSS.)
 22 *Coralliocaris inaequalis* ORTMANN. (OFTMANN.)
 23 *Perichimenes* sp. (T. U.)
 Family Palaeonidae.
 24 *Palaeonella tenuipes* DANA. (OFTMANN.)
 25 *Leander pacificus* STIMPSON. (T. U.)
 26 *Palaeon nipponensis* (DE HAAN). (From fresh water) (T. U.)

(T. U. は瓜田友衛なり)

鹿兒島灣に於ける蝦類の分布

(論 説) ○鹿兒島縣に産する蝦類及其分布に就て (瓜田)

鹿兒島灣に棲息する蝦類はこれを分布上即ち棲息區域の上より考ふれば次の三群に分つを便なりとす。

第一群は概ね左の七種にて干潮時に露出する砂底又は砂泥質の海底より四五尋位の淺海に産する種類なり。

- 1 *Metapenaeus affinis* (H. MILNE EDWARDS). モエビ
- 2 *Metapenaeus monoceros* (FARRICUS). ヨシエビ
- 3 *Penaeus japonicus* SP. BATE. クルマエビ
- 4 *Penaeus latisulcatus* KISHINOUE. フトミゾエビ
- 5 *Palaeon paucidens* DE HAAN. スチエビ
- 6 *Palaeon japonicus* (OFTMANN).
7. *Bithynis longipes* (DE HAAN). テナガエビ

以上の内初めの四種は幼時干潮時に露出する所に棲息するも生長すると共に沖合に出でて棲息し「クルマエビ」「フトミゾエビ」の如きは三四十尋の海底より漁獲せらるゝ事稀ならず。然れ共一般に淺所に多 棲息し鹿兒島市甲突川河口沖深さ約五尋の砂底は鹿兒島市附近に於ける「クルマエビ」「フトミゾエビ」の唯一の漁場なりとす。「スチエビ」「テナガエビ」は一二尋以内に多く殊に「スチエビ」は河川又は河口附近に居るを普通とす。

第一群の蝦類は鹿兒島灣にては其の産額至て少なく「モエビ」「クルマエビ」「フトミゾエビ」及 *Palaeon japonicus* はこれを市場に見るを珍らしとせざるも「ヨシエビ」「スチエビ」「テナガエビ」は至つて少なく特に「ヨシエビ」は北部鹿兒島灣の北岸に少量に見らるゝのみにて鹿

(論 說) ○鹿兒島縣に産する蝦類及其分布に就て (瓜田)

二四

兒島魚市場にては「フトミズエビ」「クルマエビ」に混じて稀れに一二疋を見出し得るのみなり。

第二群の蝦類は十尋内外の砂質海底に群棲する種類にして *Metapenaeus mogiensis*. 「モキエビ」 *Metapenaeus daiei*. 「キシエビ」最も多く *Metapenaeus acleivis*. 「トラエビ」これに次ぎ *Trachypenaeus curvirostris*. 「サルエビ」も亦少なからず。此等の蝦類中に少量の *Metapenaeus akagishi*. 「アカエビ」 *Sicyoniidamifer*. 「シヤツエビ」 *Metapenaeus lamellatus*. 「ホッコクエビ」 *Nika edulis*. *Latulutes planirostris*. 及 *Cangon* の種類等を混す。

此等第二群の蝦類は北部鹿兒島灣に産する事稀れにして全く産せずと云ふも過言にあらざるべし。漁場は南部鹿兒島灣沿岸一帯にて可なり多量に産する地方あり、例は肝屬郡花岡村古江にては第二群の蝦類の剝蝦は主要海産物にして多量に漁獲せられたる時は一年に一萬斤以上に達し少き年も三四千斤を降らずと云ふ。鹿屋町高須にては一ケ年に生蝦として百餘石煮干蝦として三四千斤を産出するを普通とすと云ふ。

鹿兒島灣東岸の主産地は前述の花岡村古江、鹿屋町高須の外に新城村を數ふべく西岸にありては山川村、指宿村港及多良に多く漁せられ谷山村これに次いで漁獲高多し。

漁期は普通春夏の交にして四五月を盛漁期とするも冬期より綱を曳き初めて餌用とし又秋遅くまで漁する所あり。

り、例は肝屬郡大根占附近にては冬期これを獲りて延繩の餌とす。又鹿兒島市附近にては秋季まで蝦網を曳くも六月頃には「キシエビ」影を潜め八月九月十月頃は「モキエビ」「トラエビ」其の數量を減じ「サルエビ」其の數量を増加す。

第二群の蝦類は前述の如く大隅の沿岸にては新城村以南小根占村近く迄、薩摩沿岸にては鹿兒島市以南赤水の鼻まで多少の産額を見る。其の漁場の深さは浅きは三尋深さも二十尋を超えず、普通五尋乃至八尋を其の棲息地とす、而して其の主産地の位置を考ふるに一は薩摩國知林島以南より赤水の鼻まで、二は大隅國古江及高須の前面、三は谷山村の前面にして鼎足の形をなす。これ此の群の蝦の棲息には浅き砂質海底を必要とするに依るべけれども亦灣内と外海とを交流する潮流との關係をも併せ考ふると必要なりと信す。即ち此群の蝦類は海底砂質にして潮流の割合に早き所に好んで群集するものゝ如し、灣外より侵入する潮流は狭き灣口にて大隅薩摩の兩岸を流ひ東北に向ひて高須附近に衝突し方向を西北に轉じて谷山附近に向ひ鹿兒島水道を北に流るゝものゝ如し。潮流がかくの如き方向に流るるを以て灣口、高順附近、谷山附近は割合に其の流早し、これこの群の蝦の主産地、鼎足の形をなす所以にあらざるか、只小根占村以南の大隅沿岸は潮流激しきも沿岸岩礁よりなり此の群の蝦の棲息に適せず。

以上述べたる第一群第二群の蝦類の多くは晝間砂中に埋れ夜出でて食を攝るを以て其の漁業も夜間に行はれ俗に蝦網と稱する小形の手線網又は小打瀬網を使用するを普通とす。

第三群の蝦類は百尋内外の泥質海底に棲息する種類なり。

北部鹿兒島灣の蝦類は主として第三群に屬し *Plesionika binoculus* (コシアカエビ) を主とし *Solenocera distincta* (ヒゲナガエビ) 及 *Parapandalus spinipes var. grandis* (オキノスヂエビ) これに次いで多く産し少量の *Plesionika murata* (シラエビ) を混す。

南部鹿兒島灣にては *Plesionika murata* (シラエビ) を主とし *Solenocera distincta* (ヒゲナガエビ) これに次ぎ、少數の *Metapenaeus* sp. (オキノアカエビ) *Plesionika binoculus* (コシアカエビ) 及 *Haliporus sibogae*? (ヒゲナガモドキ) を混す。

北部鹿兒島灣に於ける第三群の蝦につきて今少しく述んに「コシアカエビ」の棲息地は浅きは四五十尋深きは九十乃至百尋にして普通五十尋乃至七八十尋の海底なり。されば北部鹿兒島灣に於ける此蝦の漁場は何れも海岸に近く存在す、故にこれを漁するには錨を岸に打ちて小手線を使用す。其の量も可なり多く一日一艘三斗を漁する事珍しとせずと云ふ、一年中其の棲息を見るも漁業の盛期は春より夏の間なりとす。

「ヒゲナガエビ」は常に前者に混じて漁せらるるものなれ共「コシアカエビ」より多量に漁獲せらるる事あり。十月及十一月頃は其の盛漁期なり。漁場は「コシアカエビ」よりも深く八十より百尋までの泥質海底なり。而して其の主要漁場は二個處にて北部鹿兒島灣の最南部と一致す、即ち一は沖小島の西南方にして二は福山村の西方敷根村の南方なり。

「オキノスヂエビ」は「コシアカエビ」に混する事珍らしからざるも割合に浅き所に非常なる密集團群をつくりて棲息す。されば常には其の漁獲高少きも其の團群に遭遇せんか一回の曳網にて四五斗に達する事稀ならずと云ふ、漁場の多くは海岸に接近し四五十尋の所を普通とし深きも八十尋位に過ぎず。盛漁期は「コシアカエビ」と同じく春夏の交なり。

「シラエビ」は北部鹿兒島灣にては經て僅少にして只沖小島の西南方なる深所に於て時々其の群集を見る事あるに過ぎずと云ふ。

南部鹿兒島灣の第三群の蝦の棲所は海深に制限せられ其の主産地は垂水村柘原、喜入村前濱及西櫻島とす。

「シラエビ」は南部鹿兒島に産する第三群の蝦類中最も重要なるものにして漁場の海深は百尋乃至百二十尋に及び其の海底泥質なり。漁期は冬期より翌春に亘りて盛なるも夏期も亦其の漁獲高少しとせず。垂水村柘原の産額を見るに盛漁期には一日一艘二石を漁する事珍しから

(論 説) ○本邦産貝類學名の變更に就て(四) (平瀬)

ず、一個年には一艘六七百圓の漁獲高を得ると云ふ。

「ヒケカガエビ」は「シラエビ」に混じて漁せらるるを普通とす、其の棲息地は前種よりも淺く百尋位を普通とし「ウラエビ」の一網に百二十疋を混するを通例とす。

「ヒゲナガモドキ」は「シラエビ」略同じ深さに棲息するも其の量至て少なく「シラエビ」の一網に百疋位を混するに過ぎず、尙ほ南部鹿兒島灣の第三群の蝦類中には稀少「コレアカエビ」及「オキノスチエビ」を混する事あり。

第三群の蝦類は第二群の蝦類と異り晝間に漁するを普

通とし朝に初めて夕に終る。

以上を通覽するに鹿兒島灣産の蝦類は前述の如く第一群、第二群、第三群とする事を得。第一群は殆ど南北兩灣共通なり。第二群の蝦は「モキエビ」「キシエビ」「サルエビ」「トラエビ」を主とし其の産地は南部鹿兒島灣に限らる。第三群の蝦は「レラエビ」「コレアカエビ」「ヒゲナガエビ」を主とし「シラエビ」は南部鹿兒島灣に「コレアカエビ」は北部鹿兒島灣に産し「ヒゲナガエビ」は南北兩灣の深所に産す。

●本邦産貝類學名の變更に就て(四)

平瀬 與 一 郎

(三九) *Parallelopipedum* KLEIN はリンネ以前につき *Trisidos* BOLLEN, 1798. を用ゐると可とす、「ビヤウブガヒ」屬。

(四〇) *Pecten*. の名稱につきリンネ以後の先取權を考ふるに Müller, 1766. 最も古く、而のて其模式は、トリイオン氏の考へしところとは全く異り、本邦産にありては「イタヤガヒ」の群なるより *Vola* KLEIN. の異名となるを以てトライイオン氏の *Pecten*. は *Chlamys* BOLLEN 1798. と改めざるを得ざるに至れり、因に *Vola* KLEIN. はリンネ以前の名稱につき無効なり。

(四一) *Pinna* は模式と記載との上より考ふると

は、殻項に近く双殻共に縦に膠質を以て連結せる一罅裂を有するを以て本邦産につき考ふるときは「スエヒロガヒ」及び「ハツウギガヒ」の類之に屬し、所謂「タヒラギ」は「クロタヒラギ」などと共に *Atrina* GRAY 1840. 屬に編入すべきものなり。

(四二) *Pholus* は(ニケの補板を有す)と云ふ記載より推してせば本邦産「ニホガヒ」及び「ウミタケ」は補板各唯一ヶを有するのみなればこの屬に編入するを得ず、即ち此の二種は明に *Barnes* (Leach) RISSO 1826. 屬中の種類なり。

(四三) *Natica*. と一般に稱せられし種類中には石灰